

《担当者名》 浅野雅子 asanom@hoku-iryo-u.ac.jp 児玉壮志 金澤潤一郎

【概要】

精神障害作業療法学で学んだ知識をもとに対象者の疾患と障害をふまえ、評価や治療技法について演習や実技を通して学ぶ。精神障害作業療法の評価では、情報収集や記録・報告、観察、面接、質問紙を用いた評価法の実践が出来ることを目的とする。治療技法については作業活動や集団療法、認知行動療法やSSTなどについて目的や方法を理解し治療プログラムの立案が出来ることを目的とする。最終的には症例検討を通して作業療法の評価から治療という一連の流れを理解し、実践出来るようになることを目的とする。

【学修目標】

<一般目標>

・精神障害作業療法学で学んだことをふまえ、精神障害領域における評価や治療技法について演習を通じて学び、作業療法の一連の流れを実践することができる。

<行動目標>

1. 精神障害作業療法の評価を行うことができる。
2. 精神障害領域における作業療法の治療計画を立案することができる。
3. 症例検討を通じ、作業療法の評価と実践を行うことができる。
4. 精神障害で行われる各種技法についてその目的や方法を理解し、実施することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ) 2	オリエンテーション 症例検討1	講義の説明を行う 模擬症例を通じた精神科作業療法の一連の流れの確認	浅野雅子
3 ) 4	症例検討2	評価計画立案と評価の実施 焦点化と目標設定	浅野雅子
5 ) 6	症例検討3	基本的な作業療法実施計画の立案 疾患や回復段階に応じた作業療法実施計画の立案	浅野雅子
7 ) 8	症例検討4	作業療法計画立案の発表 症例のまとめ方	浅野雅子
9 ) 10	精神系作業療法に関連する理論・モデル・技法1	SST（社会生活技能訓練） 心理教育（家族支援を含む）	浅野雅子
11 ) 12	精神系作業療法に関連する理論・モデル・技法2	認知行動療法	浅野雅子 金澤潤一郎
13 ) 14	精神系作業療法に関連する理論・モデル・技法3	認知機能のリハビリテーション	児玉壮志
15	地域生活支援の実際	当事者の思想と当事者活動（ピアサポートの実際）	浅野雅子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート50%

定期試験50%

試験結果の詳細については適宜担当教員に確認すること。

**【教科書】**

作業療法学全書 「作業治療学2精神障害（改定第3版）」 共同医書出版 2010年

山根寛 「精神障害と作業療法（新版）病いを生きる、病いと生きる 精神認知系作業療法の理論と実践」 三輪書店 2017年

**【参考書】**

香山明美 他 「生活を支援する精神障害作業療法急性期から地域実践まで（第2版）」 医歯薬出版 2014年

長崎重信 監 「精神障害作業療法学（改訂第2版）」 メジカルビュー社 2015年

早坂友成 編 「精神科作業療法の理論と技術」 メジカルビュー社 2018年

朝田隆 他 「精神疾患の理解精神科作業療法（第3版）」 中央法規 2020年

**【学修の準備】**

3年前期の「精神障害作業療法学」を十分に復習した上で授業に参加すること。

また、総合臨床実習にむけた授業となりますので、各演習は能動的に取り組み、事前学習と指導後の探索・学修にそれぞれ20分を費やすこと。

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

(DP4)リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

**【実務経験】**

浅野雅子（作業療法士） 児玉壮志（作業療法士） 金澤潤一郎（臨床心理士、公認心理士）

**【実務経験を活かした教育内容】**

医療機関や地域での臨床経験を活かした講義を行う。